

## 寅さん歩 その 23

### 東京の博物館めぐりー23

#### 墨田区ー4



平野 武宏

墨田区の博物館めぐりの両国エリアの続きです。右上の写真は忠臣蔵で広く知られる赤穂義士の討ち入りがあった吉良上野介義央の上屋敷跡(現在は本所松坂町公園)です。区内に多くある博物館(記念館・資料館・展示館等の総称とします)から寅次郎の好みで選び、独断と偏見の紹介と感想です。詳細を知りたい方は各博物館のホームページをご覧ください。入場料の記載なしは無料です。最寄り駅は代表例と出口です。

バーチャルウォーク「中山道六十九次」の途中経過も報告します。

【東京都復興記念館】 墨田区横網 2-3-25 最寄駅 大江戸線 両国駅 A1

旧安田庭園前の横網町公園内にあります。1922年(大正11年)、東京市は陸軍被服廠の移転に伴い、跡地を買収して公園の造成を進めていました。その最中に発生したのが、翌年の関東大震災でした。周辺の人々が被服廠跡に避難しましたが、運ばれた家財道具を伝わって火が広がり、多数の死者が出ました。東京市は遭難者の霊を供養し、更に東京を復興させた大事業を記念するために公園内震災記念堂(現在の東京都復興記念館)を建てました。1931年(昭和6年)に開設された館内には当時の状況を伝える絵画、写真、図表、記念遺品が展示されました。さらに第二次世界大戦で焦土と化した東京が再び復興に向かい立ち上がった姿や記念遺品が展示されています。

寅次郎が訪問した7月28日は建物外装の工事中で建物の写真が撮れませんでしたのでパンフレットの写真です(写真右)。

開館は9時～17時、定休日は毎週月曜日(休日の場合は翌日)と年末年始です。

1階展示室は関東大震災の発生から復興に至るまでの当時の写真、図表、実物資料(写真下左)



を展示、2階ホールおよび中央展示室には関東大震災を描いた絵画「上野公園から見たる灰燼の帝都」（写真下右）や復興大模型を展示、訪問時は工事中で見られませんでした。屋外には「震災記念屋外ギャラリー」があり、建造物の一部や自動車など大型被災物を展示しています。



横網町公園内には「東京都慰霊堂」（写真左）があります。関東大震災の遭難者58,000体の霊を祀るため造られた「震災記念堂」に東京大空襲の遭難者105,000体の霊を合わせ「東京都慰霊堂」となりました。9月1日と3月10日には大法要が執り行われます。

### 【こぼれ話-1】 回向院は生あるすべてのものの慰霊の園です！

1657年(明暦3年)江戸史上最悪の惨事となった明暦大火(俗に振袖火事)が起こり、犠牲者は10万人以上、未曾有の大惨事になりました。遺体の多くは身元不明、引き取り手のない有様でした。そこで4代将軍徳川家綱はこうした遺体を葬るため、本所両国の地に「無縁塚」を築き、その菩提を永代にわたり弔うように念仏堂を建立しました。有縁、無縁、人・動物に関わらず、生あるすべてのものへ仏の慈愛を説くという理念のもと「諸宗山無縁寺回向院」と名付けられ、後に安政大地震、関東大震災、東京大空襲、天災地変や人災による被災者、海難事故による溺死者、遊女、水子、刑死者、動物のありとあらゆる生



命が埋葬供養されています。山門(写真左)を入ると、すぐ左手に相撲関係者供養の「力塚」(写真下左)(江戸時代から境内で相撲の興行が行われ、隣は旧国技館がありました)、その右には「愛猫 愛犬供養碑」で(インターナショナルキャットクラブ)と記載(写真下右)。



さらに進むと、左側は「動物慰霊堂」、手前に「犬と猫と小鳥の碑」、奥のお堂にはロッカー式の動物のお墓、人並みに塔婆もたくさん立っています（写真下左）。右奥は「鼠小僧次郎吉の墓」（写真下右）でご利益を求めて墓石を削らないように手前に削り用の「お前立ち」の石が置かれています。左隣に見える小屋は「猫の恩返し（猫塚）」でした。説明板には「猫を大変かわいがっていた魚屋が病気で商売が出来なくなり生活が困窮していました。すると猫がどこからともなく二両のお金をくわえてき、魚屋を助けます。ある日猫は姿を消して戻って来ません。魚屋はある商家で奉公人に殺されたと知り、魚屋は商家の主人に事情を話した所、主人も猫の恩に感銘を受け、魚屋と共にその遺体を回向院に葬りました。江戸時代のいくつかの本に紹介された話ですが、江戸っ子の間で広まった昔話で実在した猫の墓として貴重な文化財の一つに挙げられています」と記載。大金持ちから盗んだ金を困った人にばらまいた次郎吉のお墓の脇に置くとはい江戸っ子の洒落ですかね。



〔両国花火資料館〕 墨田区両国 2-10-8 住友不動産両国ビル 1階

最寄駅 JR 両国駅西口

回向院山門の右隣にあります。両国花火大会のあゆみは大飢饉とコレラの流行により江戸で多くの死者が出た1732年(享保17年)8代将軍徳川吉宗が死者の霊

を弔う法会である「川施餓鬼」を現在の隅田川河畔で開催しました。その翌年「川施餓鬼」と合わせて「川開きの日」に行った「水神祭り」で花火を打ち上げたのが、花火大会のルーツとされています。当時は慰霊と悪病退散を祈願する目的で20発の花火が打ち上げられたと伝えられます。戦争での中断や交通事情や隅田川の汚染で1961年(昭和36年)終了しましたが、1978年(昭和53年)「隅田川花火大会」として復活、東京の夏の風物詩になっています。



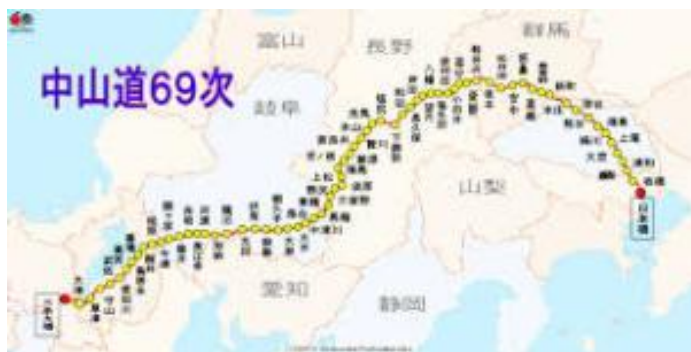
写真下左は本物の花火玉や打ち上げ筒の展示です。



両国花火資料館は7・8月は毎日開館。7・8月以外は木曜～日曜開館。いずれも正午～16時です。2020年の花火大会は中止になりましたが、8月10日～8月31日東京スカイツリー4階で両国花火資料館の特別出張展示が行われました。

### 【バーチャルウォーク途中報告】

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、「中山道六十九次」に挑戦です。7月7日、日本橋を出立し、9月13日、日本橋から33番目の贅川(にえかわ)宿に到着です。現在の長野県塩尻市で古くは温泉があり「熱川」と呼ばれたそうですが、温泉が枯れて「贅川」になったとのこと。木曾路最初の宿場で木曾福島関所の副関として幕府から指定された「贅川番所」(写真下右)が置かれ1869年(明治2年)廃止されるまで続きました。



まだ例会がお休みですので、自宅近くにマイお散歩コースを見つけ、その距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。

FWAのHP「YR・四季の道」には「ひとりで歩くコーナー」があり、コースが紹介されています。マイお散歩や一人歩きでの距離を累計して進む「バーチャルコース」が多く掲載されていますのでご利用ください。

歩く際は密閉・密集・密接の3密にならないようご注意ください！

また、ウォーキングで人との距離(2m以上)が確保できる場合はマスクを外して、熱中症にご注意ください！

次回は 東京の博物館めぐり-24 です。

平野 寅次郎 拝